夕刊
磐城新聞
五月二日發行
定價　一部金五錢　一ヶ月金六拾錢（郵税拾五錢）
廣告料金　普通廣告五號一行金六拾錢　特別廣告一行金九拾錢（場所指定一行十二字詰一回）
編輯印刷兼發行人　松本　福島縣石城郡平町十六番地
發行所　磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

木瓜

○春嵐に、うたれ乍ら咲いてゐる、木瓜の花の直情は、おれのものだ！

初夏風景

○巨大なタンクの上空に、煙層がうつすら吹きながれてゐる、街の朝明け

×

○拾圓紙幣の、青い纖維に刻まれた、人々たちの生活の、わぶしさ

白木英尾

初夏漫筆

淡路辰五郎

私は季節の中で晩春から初夏へかけての悩ましい感傷的になり易い季節が一番きらひです。その理由とか原因とかと申しますと鹿爪らしくなりますが、二つあります。そのうちで何方がより多く私を悩ませるか、それは私自身にも客觀的判斷が下せませんが、兎にかく悩ましくて嫌ひなのです

○一般的な悩み

花爛漫の春は私も大好きです。そしてその花に醉ふのをいつまでも續けたいのです。陶然たる春光に浮世を忘れ果てゝ永く浴したいのです。然し自然は何よりも正直に運行を過たずに進みます。而もその進みが餘りにも速く、爛漫の春は忽ちにして新緑に、そして萬物は潑剌としてきます。凡ゆるものが、その急テンポの波に乗つて駸々として進む時、たゞ一人取り殘されて淡い過去の幻影を追つてゐる自分の憐れな姿を眺めさせられるのは、淒慘そのものです

元來憧憬を未來に持つのは、假令それが得られなかつたにしても、まだその間には餘裕もある譯ですが、反對に之れを過去に有つのは絶對に不可能なことなのですから――。かうしたわけですから晩春初夏の今頃の時候を月並の語でいふ蕭條の秋よりも蝕々たる冬よりも私にはどうしても好きになれないのです

○個人的な悩み

春や幾とせの昔、小生も笈を負ひ青雲の志を抱いて都に遊學して居りました

恰度四月末頃から私の父が宿痾で或る病院に病んでゐたので、毎日學校の放課後、極端に不安な胸を抱いて二ヶ月餘り續けて病院を訪れました。電車の停留所を下りるとすぐ前に水菓子屋が一軒あつて、そこを通らないと病院に行けないのです。眼も綾な果物の陳列の前で殊に夏蜜柑の甘酸つぱい匂ひが、憂愁に滿ちた自分に強い刺戟を與へたものでした――變な註釋ですが私は人並以上に嗅覺が強いのです――

その年、六月中頃に悲劇の幕は下りました。然し翌年の其の頃、世は青葉に移る季節、夏蜜柑を見る時、又食べる時、私はその時の不安と憂愁の氣持に還元させられてしまいました。勿論、齢をとれば、誰しも漸く感傷が薄くなるといふ定則から脫れる事は出來ないが、初夏が來る毎に私はまだその當時の記憶がまざ〳〵と呼び起されて嫌やな氣分に浸されます

〆切に追はれるのを口實にしては濟まないのですが駄文をこの邊で打切ります

（筆者は磐城高女教諭）

斷層

文藝茶話會是非。。。。。。

○地方文藝人に何等かの形において集りを持ちたいのは誰しもの念願で、以前詩南社の小集なども微笑ましい思ひ出の一つだつた

○今度の何生氏の文藝茶話會の提唱なども或る意味で良いかも知れぬ。其が一つの文藝團体の生れる前提ともなれば尚結構だと思ふ

○唯々懸念する事は短歌會くづれ程度の同一趣味を有する集りなら兎も角、詩人あり歌人あり、俳人ありその共通的な話題を欠いた集りに統一した雰圍氣を出すことはデリケートな文藝人には困難な事ではないかと危むものである（耿生）

○何生氏の提唱、是非實現させたいと思はれます。何をおいても出席、いろ〳〵語りたいことを語ります。私も嘗て割てたことのある集りを金曜日に開かうと思つてゐた矢先ですから若しそんな集りがあつたら率先參加したい（勝男）

春のハイキングコース (3)

あなたはどこが一番好きですか（到着順）

○　高久　晩霞

元來弱いくせに子供から旅行好きで

時あらば旅をし希ふ老ひらくの思ひ出いかに樂しからまし

奈何せん、不規則な今日の生活、殊に日曜などには餘計暇が無くハイキングには凡そ縁の遠い私共の職業が恨めしい限りであります

春のハイキングの樂しい思出としては最愛（？）の妻子や心のおけぬ友垣と數回試みた專稱寺の幽邃と仁井田浦の白砂青松――で、至つて平凡かも知れませんがしかもその平凡な内にも散策の好適地として近くに松ケ岡公園などを持つ事を誇りとしたいと思ひます。昨年は滿開の花を見得ず、却ておくれて

獨り來て雨の落花と惜しみけり

なんて氣取つた積りでも無かつたのですが。それから又あと數日一山忽ちにしてすが〳〵しき葉櫻の間を心行くばかり逍遙した事を覺えて居ります

○　田部　君子

葉ざくらや樹下に茶店の杜跡

○　佐藤　清長

新舞子より南に彼の邊一帯の海岸が好きです（上京不在中に付き失禮いたしをりました）

生活の許す範圍において海へ行きたい。松にたわむれる海風、大空に弧線を畫いてはね上る濤音、砂のほのかなぬくみに軀を埋め扨て何を話したらいゝでせう

○　赤井　嶽男

腰から下を壓して見て疼くない日は無い。と云ふ程の神經痛持ちである自分には發言權が無いと思ひます

木曜だより

○舊詩南社同人信夫農學校教諭山野邊青甫氏は家人の許にて飯野村に歸省中であるが五日午後二時十五分平驛發にて歸福する筈

○春のハイキングコースについては殆んど洩れなく回答を下すつたので好評裡に〆切つたが、回答の中には紙面の都合で一節の省略を餘儀なくされたのもあつて禮を失したが、それ〴〵の個性や、文章の練りを出すのに苦心した

その日〳〵

5月3日　△和田義盛一族滅亡（建保元）△護良親王幽窟さる（建武元）△倉富樞密院議長辭職後任に一木前宮相（昭和九）

○一度見よう〳〵と思つてゐた博覧會が、いつのまにか終つてしまつて殘念なことをした。

小説　誰が殺したか (7)

國枝史郎作　龍造寺臍齋畫

第一の殺人（七）

たつた三日でも、昔一緒に暮したことのある男が、今人氣のある同僚と、戀に醉ふてゐるのをそばから默つて見てゐてはゐられなかつた

しかしアンナは、もう再び青山を自分に惹きつけられはしないと諦めてゐた

だから今晩、ホテルの舞踊會でメリーを外交官令嬢に仕込んで紹介し、青山の心を根こぎ、メリーに淡つて行つて貰はうと考へたのだつた

メリーは横濱生れの米露混血兒で、貧のところ街の娼婦だつた

その計畫が、青山に逃げられておぢやんになつたので、その晩、アンナはホテルで少し踊ると、自棄腹でメリーと二人ジャン〳〵ウヰスキーをあほつた揚句、東京の自分のアパートへ歸つたのが十二時過ぎだつた

丸山ビルの事務所から速達郵便が來てゐた

先に一度、平泉支配人としても三階のアンナがこんど研究所にしようと思つてゐるホールを見に行つた事があつた

一階、二階は貸事務所でゐた二階のホールだけ空いてゐた

アンナは氣は入つたので、すぐにその場で契約して欲しかつたが、平泉は手金の都合があるからと云つて、近いうちに改めて契約にくるからとホールの下見をしただけで引返した

昨日の朝のことだつたが念のためにもう一度みようといふのを、まだ手金も出來なかつたのを、前夜アンナの部屋に泊まつた平泉はアンナと連れ立つて、丸山ビルに立寄つた

舞踏場からそこまでは一町あまりしか離れてゐなかつた

ところが、歸りがけに三階のホールのドアの鍵を、一階の事務所に返すのを、アンナはうつかり忘れて持つて出た

速達は、その鍵の催促だつた

昨夜部屋へ歸つてから氣がついたので、夕方出がけに持つて行つて返さうと、鏡台の上に置いたまゝ、アンナはまた忘れてしまつてゐた

確こゝへ置いた筈だと見たがなかつた。引出しの中にもなかつた

方々探して見たがみつからなかつた

『どこへまぎれこんだのかしら……』

くさ〳〵してしまつて、探しあぐねた末にぼんやりしてゐると、ドアがあいて平泉支配人が、のつそりはいつて來た

平泉はまたアンナと同棲はしてゐなかつた、部屋の鍵を持つてゐて、殆んど毎晩、ホールが退けるとやつて來た

『ぼんやりして何を考へ込んでゐるんだい、アンナ』

『今日は何ていふ惡い日だらう折角横濱まで友達のメリーにあひに行けば、メリーは病氣で寢てゐるし……』

アンナは嘘を云つた

『歸つて來てみると、丸山ビルの鍵がみつからないし……』

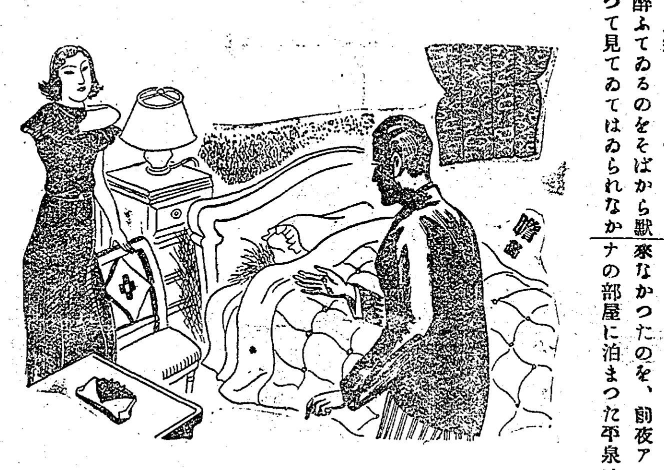
と速達をみせて鍵のことを説明した

『なくなつてことはないさ』

平泉はしやがんで、床の上をベッドの下まで探して

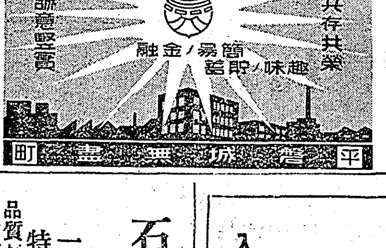
『ほら、こゝにあつたぢやないか、これだらう。君はまだ醉つ拂つてゐるからみつからなかつたんだよ』

ベッドの下から鍵を拾ひ出してアンナの眼の前で振つてみせた



廣告

新田町のおでんかん酒　榮ちゃんで（十二、三の少年）至急募集



合資會社　株式賣買、債權取立　三共商事　平町大町電三六〇

友部は皆々樣の株式店です。
株式ハ一株ヨリ　債劵ハ一枚ヨリ　御下命を願ひます
株式公債現物賣買　友部株式店　平・三丁目　電話一一七七

夜間診療
胃腸性病專門
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
松村胃腸性病科醫院　（平町南町電一〇一七番）
（見習看護婦募集）

流線型入車
御待ち兼ねの卅五年式流線型第一車が入車致しました。是非御試乗をお願ひ致します。
電話六四〇番　尼子タクシー

精神病科　腦脊髓病科　神經病科
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
郡山腦病院　電話九二五番
院長醫學士　金森五郎
入院隨時

石炭　一〇〇％サーヴヰス　値下げ
暖氣ニ向ヒダンゼン
一等塊　正味五十斤入一俵　金貳拾八錢
特塊　同　同　金參拾五錢
品質が優良　目方が正確　デナケレバ値段バカリ安クトモ結局高イモノニナリマス
此の點は當店を絶對に御信用願ひます。
◉市內ハ一俵ヨリ迅速ニ配達致シマス。
電話三七番
石炭　コークス　豆炭　阿部石炭商店

外科
內臟外科　レントゲン線
▷病室完備◁
醫學博士　諸橋鐵彌　新川町二七（電四六四）

流行ノ下駄ト草履ハ！
ドコヨリ安イ
南町　三井ハキモノ店　電話一八一番
（小僧さん入用）

ヒノマル凍魚
國は日本。凍魚はヒノマル
鯛。海老。白魚。イカ
刺身魚、煮魚、各種品々一個一尾ニテモ迅速配達……
日本水産一手特約　發賣元　株式會社平製氷　電話二八二・三一六番
平町代理店　ト印魚問屋　電話五二八番

◎日本石油株式會社特約店
フイジンゲサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店　電話六一番
本店　水戸線下館驛前（電話五五番）
支店所在地　茨城縣土浦町田宿（電話六五三　八二四）　常磐線關本驛前（電話中濱五四）　常磐線四倉驛前（電話四八）　久慈濱支店
海上給油及油槽所　大津、平潟、小名濱、江名濱
營業種目　石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡摩油、種水、植物油、カーバイト、コールタール、石炭、コークス、ストーブ

貸切の御用命は是非〳〵
電話一二一七番へ
親切叮嚀、流線形
安全第一、最優良車設備
サーヴイスモツトー
貨物一般
平町四丁目　鈴木自動車部

新緑薫風の揚士臺で 携帯兵器の性能検査
将兵百二十名あす來平

既報―千葉縣習志野戰車第二聯隊准士官十八名、下士官以下百二名の一行は研究行軍のため明三日午後四時頃戰車その他に搭乗第一校庭に到著、直ちに操從者等の疲勞程度を調査するため身体検査をなし翌四日携帯の新兵器に就き性能試験を行ふと、尚は右新兵器は未だ秘密の物で公開は禁止されてゐると

歩武堂々

高月に競ふ健兒
五日の磐中運動會に 呼び物の小學生繼走

來る五日催される磐城中學校の第三十七回陸上運動會は地方美術會その他合同の美術展覧會と併せ創立四十周年記念として盛大に行はれるが、當日の呼び物小學校兒童の繼走は午前十時半頃豫選、同決勝は午後二時頃行はれる豫定で出場各小學校では何れも目下猛練習中で昨年の覇者平第一校再び捷つか又は一昨年優勝昨年惜敗の內郷高坂校勝つか將又新進強豪現れるか期待されてゐる、尚平第三校では之を機會に同校職員により應援歌を作製練習中である

磐炭健保競技大會

內郷村磐炭健康保險組合の從業員慰安陸上競技大會は來月二十八日午前九時から同鑛金坂グラウンドで開く

郡下三十餘村とも大擧して道普請
昨日の愛護デー好成績

昨一日の道路愛護デーに際し平土木監督所では朝來所員が各町村に出張、宣傳チラシ其他で趣旨の普及に努めた、同所管內中

鹿島、川前、田人、石住、荷路夫、江名、永戶、三坂、飯野、澤渡、玉川

其他三十餘村では道路愛護會員等が乘り出し首要路の修繕をなしたが殊に鹿島村は愛護會長たる志賀校長が自ら同會青年團員並に學生等約三百餘名を督勵し朝來惡路の修繕に努めた等所員を感激せしめた

十一年度港灣改修
豊間、小濱に決定

平土木監督所の十一年度港灣改修工事は豊間、小濱の兩港に決定した、四年繼續最終年度たる豊間港は工費十五萬圓を投じ延長五十米の防波堤、並に港口の浚渫工事、小濱港は十萬圓を投じ同じく防水堤、浚渫の兩工事であると

創立四十年記念に磐中で温室建築
地方最初の近代的設計

磐中では來五日の創立四十周年記念日に際し、從來ありふれたる表彰、招待、祝賀宴等を行はず、同窓會、校友會、職員、在學生が合同永久に殘るべき記念事業として校庭の一部に最も近代的設計による二間に六間の兩屋根式溫室を建設する事となり目下全校生徒より一人五十錢宛を醵金中で近くその實現を見る筈で豫算は八百餘圓であると

。。。。所得調査會 平稅務署管內の今年度所得稅調查委員會は來る七日から開く

。。。。平町土木委員會 四日午前十時から開き道路占用願に關し協議

警親會總會

石城警親會總會は五日午後一時から平署會議室に開き會員の演説等があり終つて長橋町性源寺で物故會員の慰靈祭を執行する

婦女子に産馬指導
鄕黨から尊敬さる 男勝りの蛭田ヒロさん

昨報―纖弱い女の身で産馬を扶け從來約十頭を飼育し奬勵に盡した廉により四日郡山市で開く種馬共進會褒賞授與式に表彰される荷路夫村字中居二五源錄氏妻蛭田ヒロ(五八)さんは性質も溫しく勤勉力行の人でよく夫を扶け從來約十頭を飼育し年々多數の優良産駒を出した、最近では率先して婦女子を指導する一方産駒に努めてゐる産馬の模範婦人であり現在も自家に二十數頭の優良馬を飼育して好成績を收めてゐると

平電力發電所視察

平電力株式會社では同社最近の業態に關し各方面の認識を求むべく六日朝來第一、第二兩發電所の視察團を計劃、關係者に案內を發した

救濟工事に吸收され田植の手不足を懸念
焦り出した地方の農家

播種を終へた郡下の田植は既報の如く來月十日頃より開始されるがその頃になると目下設計を急いでゐる夏井川改修工事其他の今年度匡救工事が一齊に着工され從來の關係もあるので餘暇のある者はドシ〳〵之に就勞する事になり從つて田植季には相當の手不足から人夫の爭奪戰で手間賃等も從來の一圓位が一圓五十錢位になるではないかと先を見越した神谷方面の農家では早くも鎌田方部の季節農夫連に豫約を申込んでゐるものもある

着衣の儘飛び込み溺兒を救ひ上ぐ
江名海岸の勇敢な機關士

江名町中の作船主吉田竹次郎氏甥清治(五)は三十日午後一時頃同港船付場附近で遊戯中誤つて高さ八尺の岩壁から轉落危く溺れんとした處を居合せた同港成田丸機關士遠藤留吉(三二)さんが着衣のまゝ飛び込み救助したのでこの勇敢な行爲を賞讃されてゐる

兵事主任會
勤續者を表彰

平署管內兵事主任會は六日午前九時から同署會議室に開き左記關係町村の永年主任勤續者を表彰する

(平窪)小泉長佐 (三坂)湧井清水 (小川)櫛田政松 (湯本)比佐覺太郎 (高久)藥谷明 (永戶)合津忠男 (好間)志賀久吉

後備歩兵任官

上小川村在鄉軍人會長後備陸軍歩兵上等兵佐藤茂氏は此程陸軍歩兵伍長に任せられた同氏は去る三年分會長に任じ以來分會の向上發展に努める一方青年團、林野保護役員としての盡力者で今回は特別の進級であると

。。。。赤社寄附表彰 平町二丁目坂田藤助、研町吉村安次郎兩氏は昨年日本赤十字社福島支部事業費として各二百圓を寄附した廉で此程伊藤知事より表彰された

初夏の伊豆から

後れ走せ乍ら世の流行を追ふて三原山を見物仕り候、昨日も四人の投身者有之候由に候

夕景下田に上陸唐人お吉の遺跡を偲び申候、下田は黑船祭とやらで雜沓を極め居り候

河內と云ふ寂しい山の湯の宿に泊り申候、蛙の聲しきりに候

(山田勇生)

自慢の赤ちゃん
出場百名を突破か 大會明後四日に迫る

平町の第一回赤ちゃん大會は既報の如く明後四日開催するが今二日迄の申込は七十二名に上り、此の分では百名を突破する盛會だらうと觀られてゐると

紙芝居大會

日滿鮮一周のキリスト教傳道紙芝居師小野一良氏は今二日來平、鍛治町聖ミカエル教會に於て午後三時より紙芝居大會を行つた

更生指定取消しに草野村の不面目
縣の自懲他戒方針

草野村は昭和九年度の經濟更生指定村で指定された當時は村當局は勿論の事、村民も素晴しい意氣込みでゐたが、その熱意もどうしたものか間もなく薄くなり段々消滅して一向に更生計畫を樹立せず、縣から六回も係員が出張して指導督勵しても更に埒があかぬので遂に手を燒きつくした縣は今後のみせしめの爲に斷乎として經濟更生村の指定を取消すことに決定した更生町村は昭和七年開始以來昭和十年度まで百六十二ケ町村を指定してゐるが、中には容易に計劃樹立を進捗せぬのも數ケ町村あるので、將來へのため草野村を敢然犧牲の槍玉にあげたものであると

乗逃げ卒倒
手當ての結果蘇生 世話の燒ける鼠賊

昨一日午後六時頃平町南町エビスヤ自轉車店鈴木彌太郎氏方へ四十男が自轉車を買りつけんとしたが記號番號其他擧動不審と見た彌太郎氏が直に平署に急報した處それと感づいた男は『後で來るから』と言ひ殘して該自轉車に乘り立去つたので彌太郎氏は驅せつけた平署遠藤庄司兩巡査と共にオートバイで追跡內鄉村綴の駐在所附近で取り押へたが餘りあわてたと見ゐて此の男、突然腦震盪を起し昏倒したので直に病院に昇ぎ込み治療の上本署に引致取調べた結果勿來町關田赤津新吉(四四)と稱し該自轉車は平町新川町松崎商店員が小名濱で盜まれた品で『盜んだのを買つたと』口を緘してゐるので引續き取調べ中

。。。。不貞の妻搜索願 茨城縣多賀郡助川町日立鑛山長屋居住宮腰三之助妻タッ(三二)は昨年十月來再三家出し遂に去る二月子供三人を殘し行方を晦したが情夫と共に好間村邊で同棲してゐるらしい形跡があるので今二日三之助から平署に搜索方を願ひ出た

郷土の史的時事解説(二)
白水阿彌陀堂の第二回修理
本堂宇の特別保護建造物並に內務省安置五佛像國寶各指定に就て

勿來生(公)

否岩城、岩崎、楢葉、標葉、行方五郡の五子舊領ふ傳說すら信ずるに難くところへ、頼朝は其の役を劃期的として功將たる關東の千葉、小山、佐竹等の三大族に與へ、岩城の古族等は彼等の幕下程度に左遷し殆んど幕府の眼中になく、辛くも一部鄕村の地頭職を安堵し、昔日の勢力とは雲泥の差にまで下落した。されば幕府の綿密な公文日記である吾妻鏡に、毎卷全國大小の錚々たる雄の名を登錄、夥多なるにも拘はらぬに、岩城、岩崎氏名云々の記事は擧げてゐぬではないか

爾來、海道には千葉黨が最も強大、領有することになり、乃ち勿來關外より逢隈河外の宮城郡にまでも亘據し、佐竹族は菊多、岩城郡に分居し、小山族は菊多岩崎郡に割據し、次いで寶治より伊賀氏が好島莊を占有し、其の他白河結城氏の支領もある等で、哀れ陸奥平氏の名跡たる岩城、岩崎は、環境に此等の群雄を擁し、身動もならぬ蹙迫に變化した

此の間、加ふるに岩城、岩崎は骨肉相食むの戰爭を度々交へ、互へに勝敗、興亡が其の都度あり、織豊氏の擡頭するに至る比、本家が漸次舊態に復し、驪ては遠縁なる常陸佐竹と益々親和し、且は彼れの扶けを受けて、終ひに天正十八年に及び、本家常隆の養子として、佐竹義重の三男能化丸(八歳、常隆の母は佐竹義昭の女)を迎へた。是れ後ちの岩城平に於ける最終の當主貞隆で、義重の子義宣は舊と岩崎郡の强勇岡本族の裔良哲(先祖は小山に仕へたが、後ち佐竹の臣と爲る)を、其の常州松山城より岩城に移赴せしめ、貞隆に奉公させるや、玆に俄然岩城家は名實共に昔勢に還へり、斯くて中央にも認められるに至つた。併しながら岩城の再興は、固より重隆、親隆以來、各々伊達晴宗、佐竹義昭との婚姻を基調とした結果たるは勿論だ

昨年より多かつた花どきの稼ぎ高
去月中の藝妓玉代調べ

花の最大書入れ月たる去月中の平藝妓屋組合に於ける水上高は總計二萬八千本この金額一萬八千七百六十圓で博覧會、縣下土木大會、入山四十周年等で人の入り込みが多かつたせいか昨年同月の二萬七千五百本金額一萬八千四百二十五圓に比し五百本三百三十五圓の增收で藝妓八十名の一人稼ぎ平均高二百三十五圓に當り蒼白いサラリーマンなど到底足許へも寄りつけぬ凄まじさである

中村家寄附
遺言により七百四十圓を各方面へ

小名濱町醫師中村三良氏は豫て病氣の處藥石効無く今二日午前五時四十六分永眠明後四日午後二時同町自性院に於て告別式を執行するが、氏は生前公共に竭し、最近到底再起覺束無きを知るや、左記各方面への寄附方を遺言し從容他界したので同家では直にその手續をとつた

(二〇〇圓)小名濱小學校 (一〇〇圓)寺院 (五〇圓宛)消防組合、青年團、軍人分會、窮民救濟資金 (三〇圓宛)水野技藝學校幼稚園、青訓、傑兵會 (二〇圓)中町々內

。。。。失火へ二十圓 上遠野村大字鍛冶屋作農佐藤周藏(四四)が去月十一日午後九時半頃同村大字根岸常盤善作方製材工場裏鮫川々岸で焚火始末不充分から同十一時半頃同工場に延燒附近民の力で幸ひ一部を燒いたのみで鎭火した失火罪は此程平區より略式罰金二十圓に處された

。。。。磐炭のボヤ騷ぎ 二日午前九時頃內鄉村綴磐炭製作所から發火直に發見消し止めたが原因不明、同所附近には同庫火藥庫などがあり一時は大騷ぎだつたと

艶罪黒白(えんざいくろべちや)

◇綺羅に包んだ細腰に溜らない曲線美を見せたりするので內氣な炭鑛のお客さんなんかには先づ以て仁丹の氣附け藥でもかんで居て頂かないと取り敢へず泡でも吹かせて了ふ。と云ふ尤物◇その千代助なんて云ふ處をならべて置くので常に『良い藝者揃ひだ』なんて結こうな噂が橘亭から昨日出たのが照香二十五歳全くこつちの出やう一つで照る香曇るかと云ふ澁い年輩◇處で『今迄何處にどうして居たか?』と氣の揉めるのも尤もだが、乞ふ安んぜよ、斷然三昧線昇ぎから昇格などで無く商賣は平町が始めてと云ふ。何しても女の美しく見へる初夏へ掛けて新妓の入るのは氣持ちが良い◇古手はチト考へろ、なんてたれも云ひやしれえぢやれえか、ふくれるなよ ◎……◎

新 五月三日 木曜
舊 四月一日 己卯 佛滅 閉 亢宿

諸判定鑑 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 和親を保ち營業專心に勵むべし世話事は凶▲二黑 後るともつまづかざる樣に靜々と進むが勝ち▲三碧 辛抱甲斐の現はれ來る日名弘開店縁組吉▲四綠 有利の日なれども活動過ぐれば却て失敗す▲五黃 手綱を緩らず進むに焦らざる樣にすべし▲六白 堅實なれば目上の引立ありて出世すべし▲七赤 盛運の日なれども病には弱し飲食物に注意▲八白 變化激しき日なれば故心を散さぬ樣すべし▲九紫 思ひを安靜にし世の潮流に迷はぬ樣すべし

三日(八十八夜) (小名濱測候所調査)
日出 四、四四 月出前 四、二六
日沒 六、二四 月沒後 七、〇〇
滿潮 前三、二〇 後五、一〇 干潮 前一〇、二五 後一〇、四五
新月 前六、三二

新車御披露!

時代ノ尖端皆様ノ昭和タクシーニ又々新車三五年ノ超モダン車抜群ノダツヂブラザースガ入リマシタ。安全、確實、迅速ハ他ノ追從ヲ許シマセン、匆匆シカツタ御花見モ過ギ去リイヨ〳〵遠出行樂ノ季節トナリマシタ、是非昭和ノ新車デオ出カケ下サイ、如何樣ノ御相談ニモ應ジマス。團体ニハ地方唯一ノ大型遊覽車御用願ヒマス。

驛前 昭和タクシー 電話 三四三・三四〇番

母サダ儀 腦溢血ニテ昨三十日午後八時死去仕候間此段御通知申上候 敬具

追テ葬送ノ儀ハ來ル五月三日午後二時自宅出棺神谷村鎌田弘源寺ニ埋葬可致候

昭和十年五月一日

福島縣石城郡平町白銀町 水野隆介

父中村三良病氣ノ處本日午前五時四十六分死去致候ニ付此段御通知申上候

追而葬儀ハ來ル四日午後二時小名濱町自性院ニ於テ佛式ヲ以テ告別式ヲ執行仕候

昭和十年五月二日

男 稔
女 俊子
親戚總代 中村昇 中村一郎 丸山柯太郎 青沼鋒太郎 市原卯太郎
友人總代 醫學博士 白川彌源太 小野晋平 福尾伊太郎 羽岡平三郎